

InfoPort

Contents

- ・ アダム・スミスコレクションへの追加(9) (人文社会科学研究科教授 野澤敏治)
- ・ 学士院賞受賞 文学部保坂高殿先生に聞く～受賞作ができるまで～
- ・ ポッドキャスト @千葉大図書館を紹介します



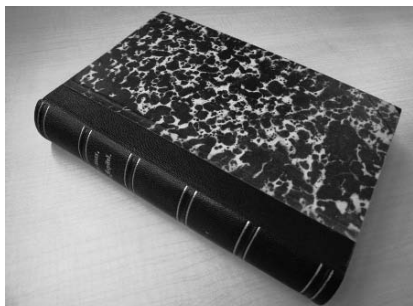
表紙絵は東京高等工芸学校（現千葉大学工学部）卒業生 故・澤田重隆氏による作品。
多くの作品が御親族より千葉大学に寄贈され、附属図書館で記念展示も開催しました。



アダム・スミスコレクションへの追加（９）

人文社会科学研究科教授

野澤敏治



Karl Marx, Das Kapital. Kritik der politischen Oekonomie.
Erster Band. Buch 1: Der Produktionsprozess des Kapitals.
Hamburg, Verlag von Otto Meissner. 1867. の復刻版

今回の追加文献は、マルクス『資本論』初版の復刻版（青木書店、1959年。No. 6の番号入り）である。他にも復刻版は出ているが、この青木書店版には編集者の序言がない。

経済学の古典の中で『資本論』ほど大きな影響力を後にもたらしたものはない。マルクスは「マルクス主義」者でなかったが、マルクス主義の栄光と悲惨は現在では過去のものとなりつつある。東西体制がなくなった後、改めて再審に付された『資本論』は今日の世界資本主義を捉えるのにどう有効な示唆を与えてくれるか、まじめな試みが続いている。

私は前世紀末の98年に市民講座でスミス経済学について話すことがあった。その時に経済学は体制を弁護したり、教科書になる性質のものでないことを述べた。マルクスの『資本論』もソ連の体制にとって恐ろしい本となっていたのである。1960年代にポーランドのY・クーロンとK・モゼレフスキーによってポーランド統一労働者党への『公開状』が出されたが、それはマルクス『資本論』の方法によってポーランドの現状を批判的に分析したものであり、当局によって反体制的だと処罰されたのである。日本でも同じころ内田義彦や平田清明等によって「社会主義における市民社会」の問題が提起されていた。彼らが日本の経験とマルクス研究から得た社会主義像はまったく革新的であり、資本主義時代に獲得した事実上の生産手段の共同利用を基礎とした「個体的所有の再建」、あるいは「自由人の連合」というものであった。私はそこまで言って問いを投げた。ではスミスはどうか。彼の『国富論』は自由主義体制を弁護するものか。そうではないという趣旨のことを話した。当日の私の解説は聴講者に十分には伝わらなかったようだが、およそ、経済学の古典と言われるべきものは、人が自己を含む社会を自分の頭で認識することを促すものであって、暗誦したり上から注入される性質のものでないことは確かである。

『資本論』は当初全3巻で予定されていたが、第1巻のみがマルクスによって刊行された。あとの第2・3巻はエンゲルスによって編集・出版される。また第1巻だけでも改訂が第2版、フランス語版と続く。したがって『資本論』は未完成であって閉じた体系でなく、開かれた認識の書なのである。理論は実践されなければ、空虚である。だがそれは時代のものとなった時に変質する。その既成マルクス像に対してゆがんだマルクス批判がなされてきたし、現在では時代の風潮に乗ってマルクス軽視がはびこる。どちらも自分でマルクスを読むことなく、古典を狭い意味での「政治」下に押し込めている。

かつて「老人のマルクス」があつてよいと言う人がいた。では、「主婦」や障害者、多国籍企業の現地派遣員やNGO、移民や非正規雇用者にとってのマルクスはないだろうか。



(文学部 保坂高殿先生)



受賞作

『ローマ帝政初期のユダヤ・キリスト教迫害』

学士院賞受賞 文学部保坂高殿先生に聞く ～受賞作ができるまで～

2008年3月、文学部史学科の保坂高殿先生が学士院賞を受賞されたという嬉しいニュースが届きました。附属図書館では、早速、保坂先生にインタビューを申し込み、そのインタビューの模様を「ポッドキャスト@千葉大図書館」から、音声とビデオで公開いたしました。ポッドキャストでは、受賞対象のご著作『ローマ帝政初期のユダヤ・キリスト教迫害』(教文館、2003年)【本館閲覧室2階 192.3/ROM】について語っていただきました。インタビューは2008年3月25日に保坂先生の研究室で行われました。ここにご紹介するのは、同日インタビュー後に語っていただいた保坂先生の文献収集方法と学生に向けてのメッセージです。

－(今回の学士院賞の受賞理由のひとつとして)

膨大な数の資料に目を通したということ、これは前例が無いということなのでしょう。それくらい今の研究者は時間が無い。

－(資料はヨーロッパで収集されたのですか?)

スイス留学中に3万ページほどのコピーをしました。その他の10万ページ近くの資料は、図書館の相互利用を通じて国内外の他の機関から入手したものです。著作の序論の最後のところに感謝の言葉も記載しました。相互利用担当者の方々の努力は大変なものでした。本当に親切にやっていただき、その文献が見つからないとどこにあるかを突き止めてくれました。その他の資料は、大学院時代に国内の図書館、上智大学や東大総合図書館で収集しました。

日本でこういうヨーロッパ古代の資料を収集するのは難しいです。自分の学生時代は、相互利用制度は今ほど盛んではなく、自分の足で図書館を訪ねました。今は相互利用制度が全部やってくれるのです。それが非常にありがたい。

－(研究にとって大事なことは)

我々、人文科学の研究者にとって図書館の整備は非常に重要です。我々の研究の要です。それくらい力を入れて整備してもらいたいです。理科系の方々は実験ですが、我々の場合に限られた時間で研究成果を出すためには、図書館と図書館機能を充実すること、これだけを望みたい。

電子ジャーナルは良く整ってきて、ホームページからアクセスできて便利になってきました。ただ高額でもあるし、この大学で古代史をやっている人は少ないですから、古代史関係の電子ジャーナルがどうしても必要とはいいません。相互利用を通して複写物を送ってもらえればそれだけで充分です。今後の研究成果は図書館の充実度にかかっている、そう言ってもいいと思っています。今回の本を出すのに、相互利用で数百回文献を依頼しました。この本は図書館との共同生産物のようなものです。

－(学生に向けてのメッセージ)

学生には、卒論は足を使って書け、ということ。それを怠っては大事な文章は書けない。そして一次文献に直接、接しないことには新しいものは生まれない。今の学生、研究者は忙しいですから、なかなか一次文献にはあたらずに他の研究者が紹介している論文から孫引きしてしまいます。その結果、出典箇所が間違ってくる場合があります。我々、歴史家は直接資料にあたるといった基本的な作業を怠ってはならないと思います。それを怠っている人が非常に多いことが残念です。

ポッドキャスト@千葉大図書館を紹介します

附属図書館からいろいろな情報を音声や動画で配信するポッドキャストサイトです。

どうやってみるの・きくの？

まずはサイトにアクセスを
<http://Libcast-ChibaU.seesaa.net/>

1. パソコン上でみる・きく

ポッドキャスト@千葉大図書館

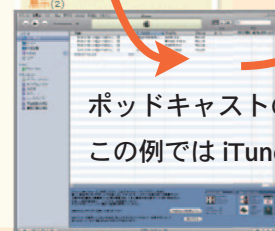
千葉大図書館がお届けするポッドキャストプログラムです。
 館内案内や教員へのインタビューをお楽しみください。



2. 「ポッドキャスト@千葉大図書館」を登録しよう

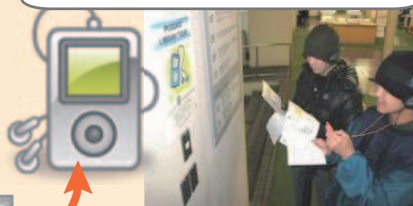


このRSS2.0アイコンをこのライブラリーツアーのポッドキャストに登録することで、番組を登録できます。



ポッドキャストの登録は RSS2.0 アイコンを
 この例では iTunes ヘドラッグするだけ

3. 携帯オーディオプレーヤーに入れて持ち歩く



iPod を聞きながらの
 ライブラリーツアー

✓ ポッドキャスト登録や持ち歩き詳しい方法は、
 「ポッドキャスト@千葉大図書館」サイトをご覧ください。

ただいま「ポッドキャスト@千葉大図書館」で公開中！

図書館を知る

● ポッドキャストライブラリーツアー (音声)



音声ガイドで図書館を一周しながらご案内する 30 分程のプログラムです。受付カウンターでライブラリーツアー用の iPod を貸出中！自分の携帯オーディオプレーヤーにダウンロードして、ライブラリーツアーに参加するのも大歓迎！

● 図書館 Q&A (音声)

● ライブラリーイントロダクション (音声)

日・英・中・韓国語版があります。図書館のサービスの概要を 10 分程度で簡単にご案内する音声ガイドです。

● 図書館ガイダンス (音声) ガイダンス内容の紹介

図書館の展示

● 澤田重隆油彩作品展 (音声 + 動画)

● 千葉市の医学と医療展 (音声 + 動画)

千葉大学の研究を語る

● 日本学士院賞受賞作について (音声 + 動画) 文学部 保坂高殿先生

● 図書資料に見るトルコの文化と歴史展 文学部 秋葉淳先生 (音声 + 動画)

● 源氏物語絵巻展 (音声) 文学部 池田忍先生 教育学部 鈴木宏子先生

● 教員と学生が作った教科書 (音声 + 動画) 医学部 小室一成先生 医学部 6 年 加藤辰一朗さん

千葉大学の教育

● 新司法試験合格者インタビュー (音声)

● 新司法試験合格者 講演 (音声) 制作：法経学部 北村賢哲先生

● 特色ある大学教育支援プログラム (特色 GP) 「パーソナルデスクラボによる実験教育の展開」

千葉大学附属図書館報 InfoPort No.17 平成 21 年 1 月発行

編集・発行 千葉大学附属図書館

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

<http://www.LL.chiba-u.ac.jp/>

TEL: 043-290-2262

FAX: 043-290-2266